

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	インクルーシブ教室 白ゆり			
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和7年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数)	14人
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和7年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数のグルーブレッスンで、支援者がひとりひとりにしっかりかかわれる。	グルーブレッスンの中で、支援者が利用者に個別にかかわることでの気づきを、他の支援者と共有している。	支援者の気づきを、他の支援者と共有し、集団の中での個別支援のあり方を検討する。
2	運動で主に粗大運動、製作や音楽で主に微細運動を行い、相乗効果による成長を促している。	運動では身体全体を使った動きを取り入れ、普段、個人ではあまり使わない部分も強化している。	アンパンマン体操やエビカニクスなど、運動と音楽を組み合わせで行ったり、季節の行事と関連づけたり、運動・製作・音楽の枠を超えた相乗効果をねらう。
3	役割を担ったり、前に出て発表したりする場を設定し、自己理解、他者理解を深めている。	役割を果たす喜びや、みんなの前で発表し、他者に認められる嬉しさを感じられるよう場を構成している。	主体的に取り組めるよう場を構成し、がんばりを認め、言葉がけを行い、みんなで拍手をするなど、自己理解、他者理解を促す。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会、きょうだい向けのイベント等、保護者同士や他の家族との交流の機会が、スケジュールとして設定されていない。	保護者同士、また、きょうだい同士、送迎時に交流する姿はある。保護者会やイベント等を、通常の開所時間に開催することは、スケジュール的に検討が必要である。	スケジュール、体制など、開催日を設けられるよう、前向きに検討していきたい。
2	家族に対しての研修の場が設けられていない。	外部からの研修のお知らせは随時行っている。家族に対しての研修を通常の開所時間に開催することは、スケジュール的に検討が必要である。	スケジュール、体制など、開催日を設けられるよう、前向きに検討していきたい。
3	法人の園や事業所以外の地域との交流が少ない。	法人の園や事業所と交流する機会は、できるだけ多く行うようにしている。その他の地域との交流は、計画できていなかった。	公園や地域の施設利用時など、しっかり交流できるよう、支援者が見守りながら促している。今後も、より積極的に交流できるよう、引き続き行っていきたい。